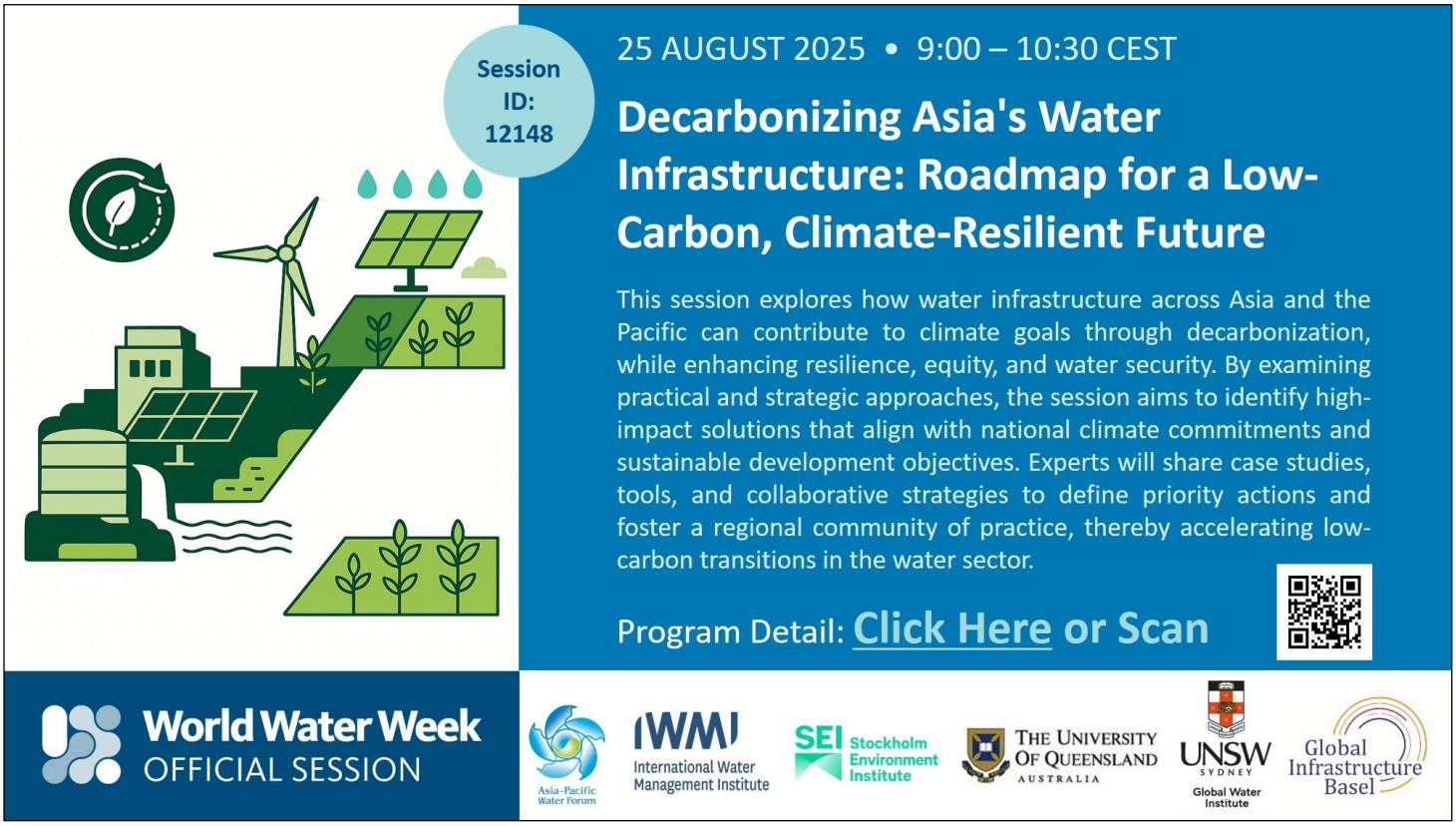
ストックホルム世界水週間 2025 アジア・太平洋フォーカスセッション・

1．アジアの水インフラの脱炭素化：低炭素で気候レジリエントな未来へのロードマップ

8 月 25 日（月）9:00 – 10:30 CEST（日本時間 16:00～17:30）会場 Room C1, Level 2/オンライン



セッション概要：

本セッションでは、アジア太平洋の水インフラが、脱炭素化を通じて気候目標達成に貢献しつつ、レジリエンス、公平性、水の安全保障をどのように強化できるかを探ります。実践的・戦略的アプローチを検討し、各国の気候公約や SDGs と整合する高インパクトな解決策を特定することを目指します。事例やツール、協働戦略を共有。優先行動の明確化と地域の実践コミュニティ形成を通じ、水分野の低炭素移行を加速させていくための道筋について議論します。

主な議論テーマ：

・水と気候変動戦略の統合

クリーンエネルギーや炭素隔離技術を、持続可能な水管理やパリ協定の目標と連携させ、水需要を気候変動対策に組み込んでいく方法

・衛生分野での排出量削減

衛生分野での排出量を削減することで、排出量が少なく、気候変動にも強い水インフラの実現方法

・地下水管理と太陽光発電
地下水の過剰な取水を防ぐためのしっかりとしたルールと、太陽光を利用した灌漑システムをどのように組み合わせるか

・稲作での温室効果ガス削減
間断かんがい技術（AWD）を活用し、稲作における温室効果ガスを減らし、水の生産性を高める方法。カーボン市場の活用手法

・流域全体でのカーボンニュートラル
ダムや水システム、森林管理を最適化することで、流域全体でカーボンニュートラルを達成する方法

・民間資金の活用
FAST-Infra ラベルのような国際的な基準を利用し、民間からの投資を呼び込む方法。これにより、環境・社会・ガバナンス（ESG）や気候変動へのパフォーマンスを確保しつつ、高い効果を持つ緩和・適応プロジェクトを進める方法。

・都市部における水セクターのネットゼロ化
再生可能エネルギーの導入や効率化、そして全ての排出源を対象とした部門横断的な計画を通じて、水セクターでのネットゼロを進める方法。

・費用対効果の評価
トレードオフやコ・ベネフィット（相乗効果）、そして費用対効果の高い解決策をどう評価していくか

共催機関：

- APWF
- グローバル・インフラストラクチャー・バーセル財団 （GIB）
- ニューサウスウェールズ大学 世界水機構
- 国際水管理研究所（IWMI）
- ストックホルム環境研究所（SEI）・アジア支部
- クイーンズランド大学

プログラム

9:00-9:03	**セッションの紹介 ・背景説明** 朝山由美子 氏（APWF 事務局／日本水フォーラムチーフマネージャー）

CEST	
9:03- 9:45	**7 名の登壇者による発表** 1. グレッグ・レスリー教授（世界水機構ディレクター／ニューサウスウェールズ大学 化学工学部 教授） 2. **「衛生システムにおける気候変動緩和の機会」** ダニエル・ディバ 博士（ストックホルム環境研究所（SEI） 持続可能な衛生イニシアティブ 研究員） 3. **「アジアにおける水インフラ脱炭素化に向けたソーラー灌漑の役割」** モーシン・ハフィーズ 博士（国際水管理研究所（IWMI）水・食料・生態系戦略プログラムディレクター） 4. **「間断灌漑（AWD）による稲作システムの GHG 削減と水生産性向上」** ヒズ・ジャマリ 氏（アジア開発銀行（ADB） 気候変動・レジリエンス・環境クラスター 上級気候変動専門官） 5. **「カーボンニュートラルに向けた日本の流域単位での統合水管理」** 田中敬也 氏（国土交通省 水管理・国土保全局 水資源計画課長／内閣官房 水循環政策本部事務局 参事官） 6. **「FAST-Infra ラベル（持続可能な移行加速のためのインフラファイナンス・ラベル）」** チェンチェン・チアン 氏（グローバル・インフラ・バーゼル財団（GIB） シニアマネージャー） 7. **「水システムの脱炭素化 ― 世界的課題解決のための機会」** スティーブン・ケンウェイ教授（クイーンズランド大学 水・環境バイオテクノロジーセンター）
9:45- 10:25	**パネルディスカッション** • パネリスト：上記登壇者全員 • 沖大幹 教授（東京大学 特別教授・総長特別参与／JWF・APWF 事務局 副会長、2024 年ストックホルム水大賞受賞者） • オンラインモデレーター：朝山由美子 （APWF）
	質疑応答・参加者からのコメント
10:25- 10:30	**まとめ・閉会** • 各登壇者からの最終コメント • 主な論点と優先行動の総括